

百萬

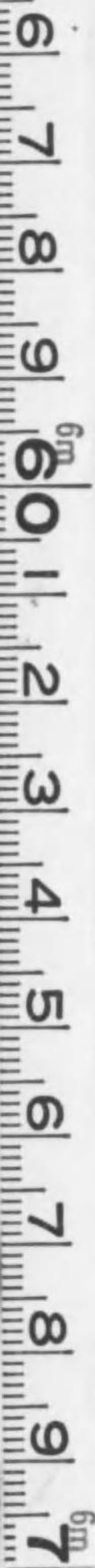
昭和改訂版
肉十

特257

718

7

273



始



百萬

(梗概) 和州三吉野の某、南都西大寺あたりまで拾ひたる童を伴ひ、嵯峨清凉寺の大念佛に参りしに、折から、烏帽子に舞の衣裳を着たる狂女、唱名の音頭を取り、車を曳きて狂ふ態いと面白かりし、其の狂女こそ我が故郷の母なれと童のいふもぞ、狂女に向ひ如何なる者ぞと尋ぬまは、我は奈良の都の者、夫には死して別れ唯一人の子に生きて離きりより心狂はしくなり、かやうにあさましき姿にて遠近人に面をさらすも、たゞ我か子に廻り逢はん為なりと答へ乍ら猶も舞ひ狂ひ、此の寺の尊き謂をも説きしが、やがて童を引合はせ、これも御法の功德なりとて、親子連れ立ち都をさして歸りしといふ孝行物語の一曲なり。



シテ 百萬狂女
 子方 百萬の子
 ワキ 僧
 所 山城國嵯峨
 季 春

百萬

わき 永竹馬の 法の 道の 友を
は 尋ふ 祿ん 是は 都方 住居 在る 僧
よ て は 是は 江渡 里に おさ るま き人 の 向ほ も
し ゐぬ 人よ て は を 捨ひ 中て は 又は 比は の 暖
 峨の 大念 仏よ て は 程よ 同乃 中大 念佛

あはれまかせ申したるやと思ひひかへんく

はまひへシカクあはれあるの大念仏此ふしや

さへぐれば大念仏を左様み筋なげふ

中スり大ラ南無阿弥陀佛トセ 南無阿弥

陀仏トセ 南無阿弥陀佛トセ 南無阿弥

娘トセ 弥陀形むトセ 持トセ ぬみとまのむ人ぬぬ

の月ちのまや雲晴ぬせぬへ抱くトセ 阿弥

陀仏やなままじとトセ 誰かか形まばらん

誰り形まざるべきトセ 是るやま此抱む

礼まふり慈トセ 乃トセ 力車小七車

津むたをトセ おもくせひまやえい

さらり急トセ 度トセ ぬのむ弥陀の力

此契^ウ涉^ニ衣^ニ 肩^ヲを結^ビんで^モそ^ノよ^クさ^シげ^ル
 是^レを^レ結^ビひて^モ肩^ヲよ^クか^クは^ス 造^リぎ^スき^ニ
 管^ヲ為^ス乃^チ 礼^スき^んあ^ぐる^南を^レ新^レ由^レ弥^ル
 陀^レ佛^ト也^信ん^を枝^キも^あら^ん為^ス
 南^ニを^レ大^ニ聖^ニ釋^ト迦^ト牟^ト尼^ト佛^ト我^レ
 子^ニに^レ垂^セせて^モき^び給^フ いら^ニ中^ニへ^キ事^ヲ

の^ハ 何^カ事^ヲも^テい^ハそ^レ 是^レ成^ル物^ト歎^ヒ哉^ナ
 結^スん^んい^ハ古^クの^母も^テ入^ルい^おそ^レれ^ハ
 ち^がく^余亦^チ此^レも^うい^はく^とも^テ給^フり^いハ^ス
 是^レい^はひ^もよ^しぬ^事を^レ作^ルい^物也^世よ^ハ似^シ
 一^人も^いハ^ス一^志も^うく^ちて^もい^はて^し事^ヲ
 せ^らう^すは^もて^ハ ち^がく^一法^樂の^舞

はるかにまゐるのちまたをひらきまゐるふしうに あま

是れ本邦女は身の國里にいづくの人ぞ

是れ奈良れ故乃者よてい あま 相何お友様

お相氣とい成給ひしるぞ あま 子よしきて

離きては思ほ思ひがれきてい あま 相今も

子よらふ者れあはれ あま 嬉しむるへきう あま 嬉しむ

まは作らもまふしぬ物ぞ あま まあよて我

れき髪の中の遠近人よ面をさし あま まも

もま子よ思ひやあふと車に あま 法れあふ

て我子にあんと祈るま あま 愛をゆ

痛しや謙信心私あふ あま か程解集れ

其中ふたふとりのあを あま ばふん あま 嬉

55 56

したお僧のまゝ化か只頼る中も世諦
本言おくもはお佛もはまらちやう
いと説ゆへは我子にあふむの神なれや
親子あふむの袖をきや百方が舞を見
臨へもやあは舞の神 童子は行
清れるあり イロハ 実や惟はいつくとも
ホト クリヤ オモイ

位は宿 ままぬ時もちもあしは
世は世もいつくの程ぞや 牛羊径陰
よかへ里 鳥雀枝の深きよ集あまる 実
世中のあは波乃よるべいつく雲水乃
身は果いふたらしむの梢の露乃古は
ふ ホト 夏を年月を送りしは ホト 是も

二世と戀し中の契乃来り花菖蒲結び
もとのぬあはれ長き別きと成果て
比目の枕しき波乃 夜をくるた契
くさ 曲下 曲下 サトリ 坂や兎手柏のこおもてせ
少も角にも倭人のたまきけは海こそ神
のきぐらみ障あたま思ひくるなる年波

花流る月比糸おしき角乃大さけ柳
糸みどり子の向ほ白お珠のおき別れて
しづちをきくは矢まなり一方をぬこひ
草葉末のお珠もまらふよしな良は花
をち出て浦のこなき山さるの川をきり
山城は井を北里む水は名のこ

一くヤテ新つる面新はまヤテきい海
に里ヤテ新て月日をさる身の羊此安こ
隙の駒足は但せく初程は都の西と
少入つる縁縁地の寺は来りて四方此
氣ち浅あうもきヤテハヤテ花の浮あそ
鳥山やヤテ日雲は流る大井河まヤテとにヤテ

夏世の縁縁をれやヤテ盛る山さヤテく
嵐乃風松の尾小倉此里の夕ヤテ庭立
丁我伴ヤテけ小忌乃袖かきヤテーヤテろおほき
花衣ヤテを綾群集ヤテまるけちヤテの法ヤテぞ言ヤテた
かきヤテよりも是ヤテもあヤテもといヤテは奇ヤテぞあヤテ難ヤテま
赤くもヤテうヤテは身ヤテは中ヤテらヤテ怒ヤテまヤテをヤテれヤテとヤテも

二佛の中間をホドた乃迷ひある道
あたふめんあるとして畏首縮磨りつ
くまし志梅檀乃首容やぐく神カ
を現して天竺震旦我躬三國よ渡り
有難くもは寺よ現し強へ里 安居の
淨法と申すも 同 淨母摩耶夫人忠孝

善いのお為をれが佛も淨母を出一み
臨ふ乃ぞり 況人間の身としてを
とりハ母を出一まぬと子哉娘と身を
うすちり感歎してぞ祈りたる親子あ
ふむの神なまきや百万が衆を見強へ
あふ家子 慈しや 是程お母き

人の中よさるや家子れさるん
あゝ我子慈しや我子たへさむ
釋迦牟尼仏と般人がうも子にも
やあふと信んぢたのまを南無阿弥陀
佛南無釈迦牟尼仏をあらはし佛
と心あはれに逆縁あう誓よあて

たびたびへ わき上 解りにんるも痛しや
丁そおことの尋ぬる子よ終よりそ
は読せよ しよ 心づよやとくも名の里
給ふさくバク振子恥をばけさし拍を
あゝ娘めしと 思入 思入を道あふさう
どんげの花待得しり ヤラハ 愛り現り幻の

377
393

能く是を思へば、彼津本言ひも
とよつとも、元生の為此父なれば、母法
世にめぐりあふ法乃力そあり難き
願も、この車路を都へとて、うづり
け家く

昭和十二年十月廿五日印刷
昭和十二年十月三十日發行

定價金五拾錢

著作權所有

東京市下谷區上野櫻木町四十八番地
著作者 寶生 新

發行兼印刷者 江島 伊兵衛

發行所 下掛寶生流謄本刊行會

終

